

2018/10/01-02

平成30年度特定鳥獣の保護・管理に係る研修会（初級編）

特定鳥獣4種の保護管理計画の考え方と効果的な
進め方

④ニホンザル

特定非営利活動法人
里地里山問題研究所（さともん）
代表理事 鈴木克哉



<http://satomon.jp/>
info@satomon.jp

今日の内容（ニホンザル基礎編）

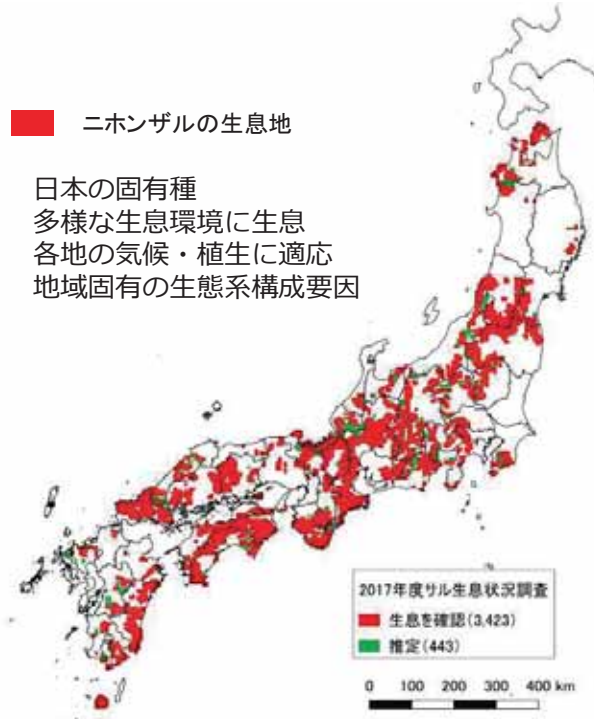
I. ニホンザルの生息状況と被害の特徴

II. 管理の基本的な考え方

III. 効果的な管理の進め方

- ① 現況把握
- ② 個体数管理（群れの状況に応じた捕獲オプションの選択）
- ③ 住民が主体となった被害対策の推進
- ④ 役割分担に応じた主体間の連携と統合的な計画

ニホンザルの生息状況



ニホンザルの生息状況の変化

	1978年	2003年	2015年
確実な生息メッシュ数	2,288	3,471	3,197
生息が推定されるメッシュ数			493
合計	2,288	3,471	3,690
1978年比		1.517	1.613
2003年比			1.063

(環境省調べ)

- ・ 全国的には生息メッシュ数は拡大
- ・ 地域によって状況は異なる
- ・ 分布が孤立化している地域もある



ニホンザルによる被害の特徴



群れでやってくる
⇒ 1度の被害が甚大
ぜいたくな食べ方をする



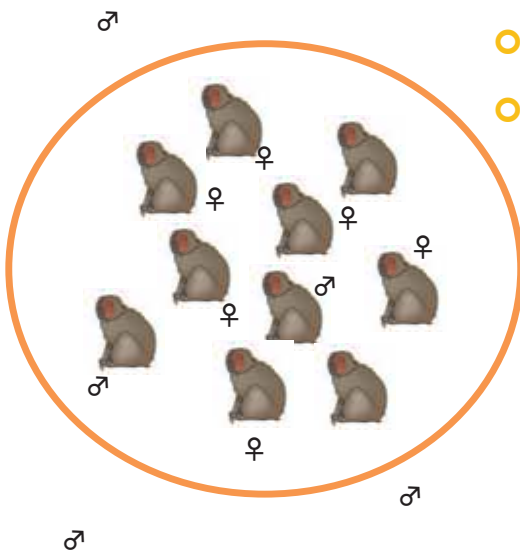
➤ 人や人家などにすぐ馴れる
⇒ 生活被害・精神的被害





ニホンザル管理の 基本的な考え方

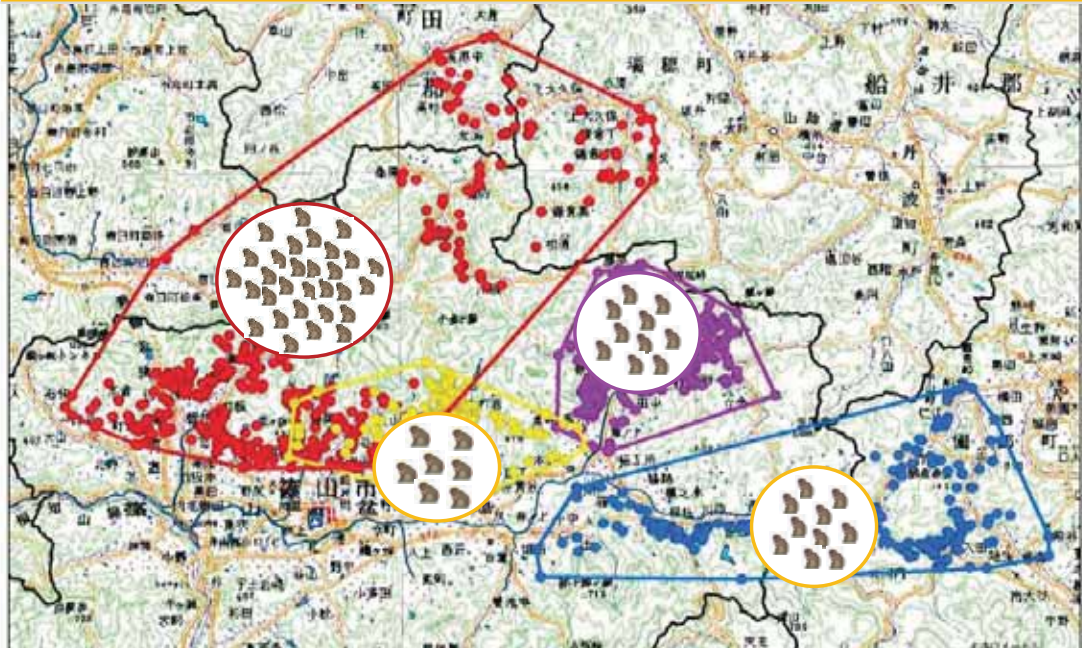
サルは群れをつくる



- 昼行性
- 群れを作る
 - 母系社会（オスは移出、メスは定住）
 - 群れサイズ：平均40頭（10～100頭を超える群れも）
 - 行動圏を持つ
 - 群れにより特性が異なる

発信機を装着するといろいろな情報が分かる

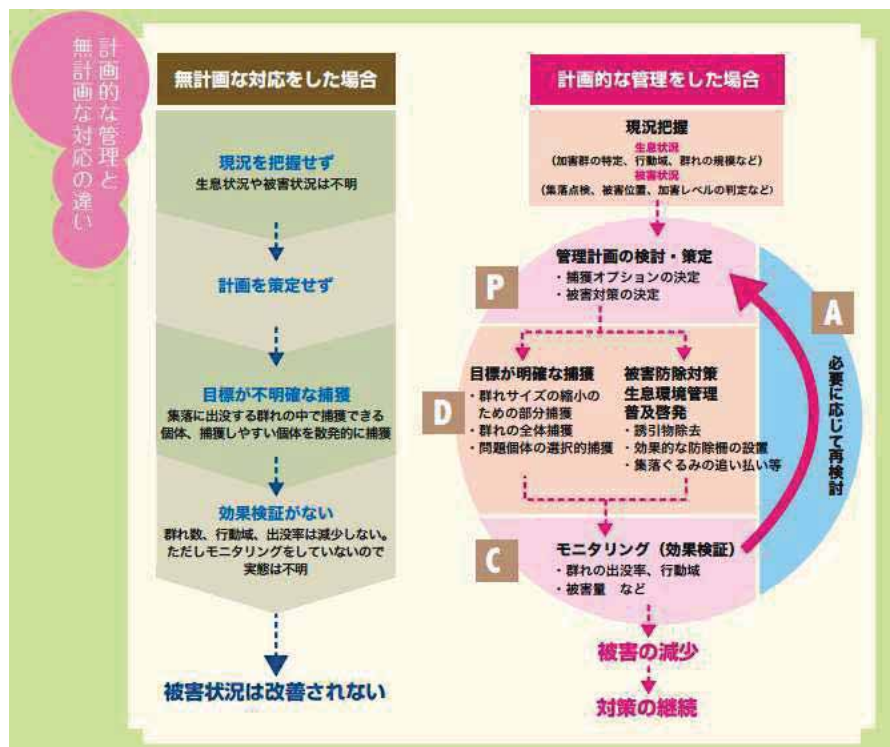
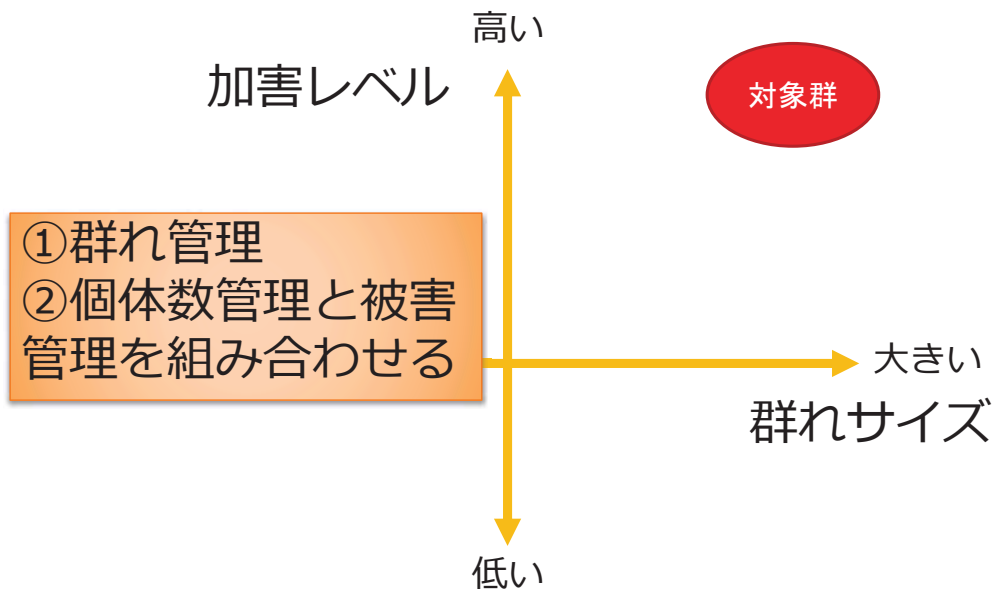
群れには行動圏があり、行動圏内にある集落を巡回している



個体数の直接カウントもできる
(精度の高いデータが得られる)



群れにより特性が異なる



環境省 平成27年度 特定計画ガイドライン概要パンフレットより

計画的な管理をするか

無計画に対応をするか

その差は大きい！！

サル管理の効果的な進め方

1． 現況把握について

現況把握に基づく計画を (何を把握すればよいか)

1. 生息状況

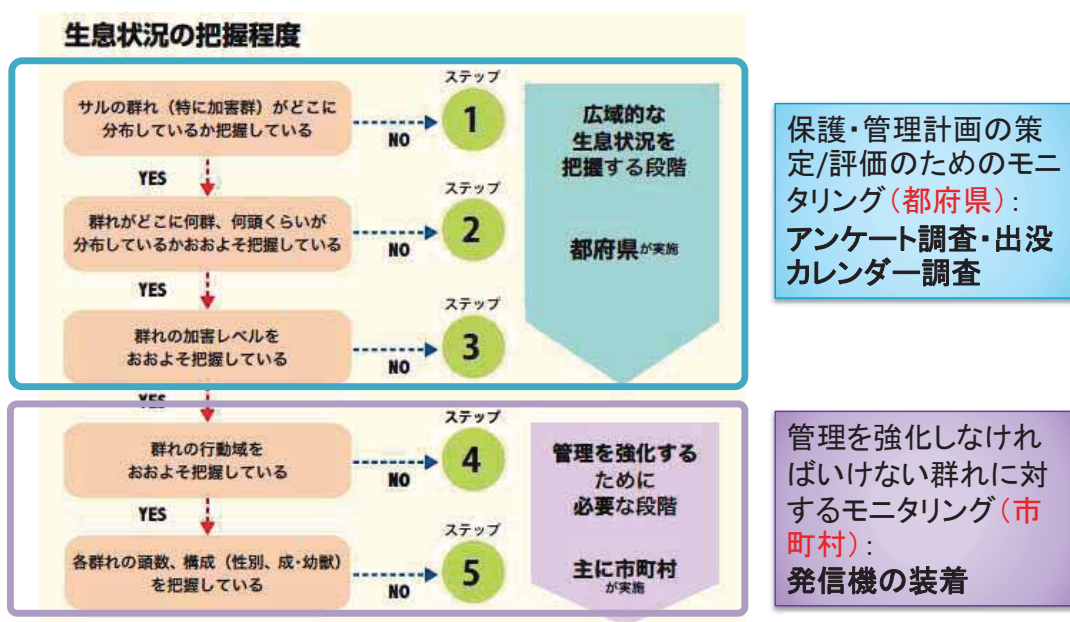
何群いるか？ それぞれの群れの

①行動域、②個体数、③加害レベル

2. 被害状況

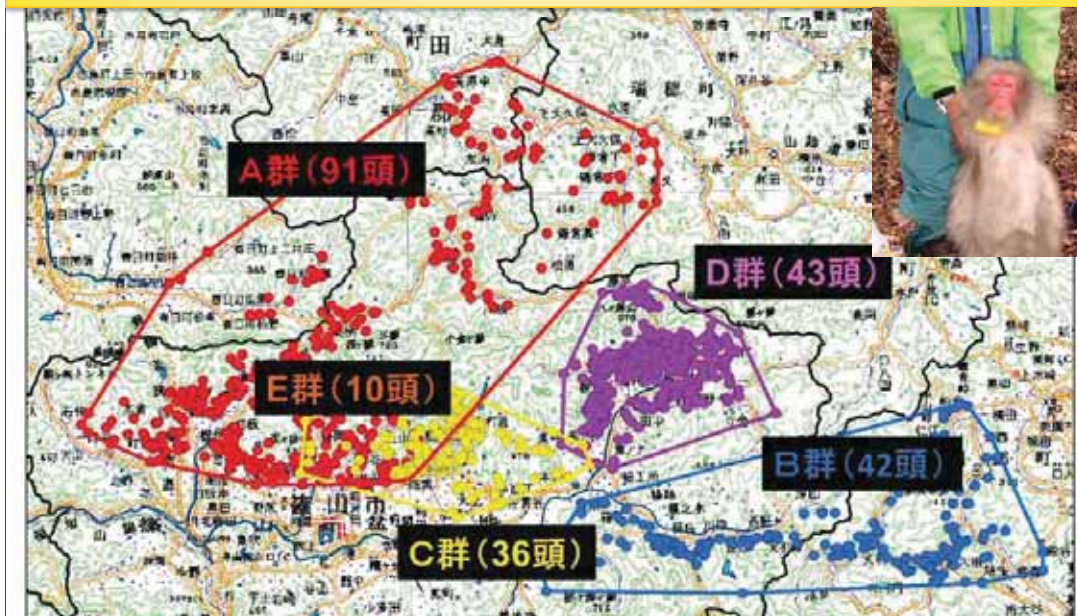
被害時期、被害作物の種類、被害量
・被害発生範囲（集落）、生活被害
・人身被害の有無・程度

大まかな情報収集（住民情報等）からはじめて、管理
を強化すべき群れを選定する（第1段階）。



環境省 平成27年度 特定計画ガイドライン概要パンフレットより改変

優先的に対応が必要な群れに対しては、
発信機を装着して行動域や**個体数**・**詳細な加害レベル**の把握をすすめる（第2段階）



加害レベル判定は難しくない
（環境省基準を参考に）

表Ⅱ-1-1 加害レベル判定表

ポイント	出没頻度	平均的な出没規模	人への反応	集落への加害状況	生活被害
0	山奥にいたためみかけない	群れは山から出てこない	遠くにいても、人の姿を見ただけで逃げる	被害集落はない	被害なし
1	季節的にみかけるときがある	2、3頭程度の出没が多い	遠くにいても、人が近づくと逃げる	軽微な被害を受けている集落がある	宅地周辺のみかける
2	通年、週に1回程度どこかの集落でみかける	10頭未満の出没が多い	遠くにいる場合逃げないが、20m以内までは近づけない	大きな被害を受けている集落がある	庭先に来る、屋根に登る
3	通年、週に2、3回近くどこかの集落でみかける	10～20頭程度の出没が多い	群れの中に、20mまで近づいても逃げないサルがいる	甚大な被害を受けている集落がある	器物を損壊する
4	通年、ほぼ毎日どこかの集落でみかける	20頭以上の出没が多い	追い払っても逃げない、または人に近づいて威嚇するサルがいる	甚大な被害を受けている集落が3集落以上ある	住居侵入が常態化

それぞれの項目の判定は、①現地調査、②アンケート調査、③専門家または行政担当者によるチェックのいずれか、あるいは複数の方法によって行う。部分捕獲や群れ捕獲の対象群等については、①あるいは②の手法による客観的な評価に基づいて加害レベルを判定することが望ましい。

表Ⅱ-1-2 加害レベル

加害レベル	合計ポイント
0	0
1	1-2
2	3-7
3	8-12
4	13-17
5	18-20

人馴れ・生活被害
も含めた評価

環境省 平成27年度 特定計画ガイドラインより

「加害群半減」目標は「加害レベル」半減目標と読み替える

『二ホンザル被害対策強化の考え方』（2014年4月環境省・農林水産省発表）

『10年後（平成35年度）までに加害群の数を半減させることを目指す』



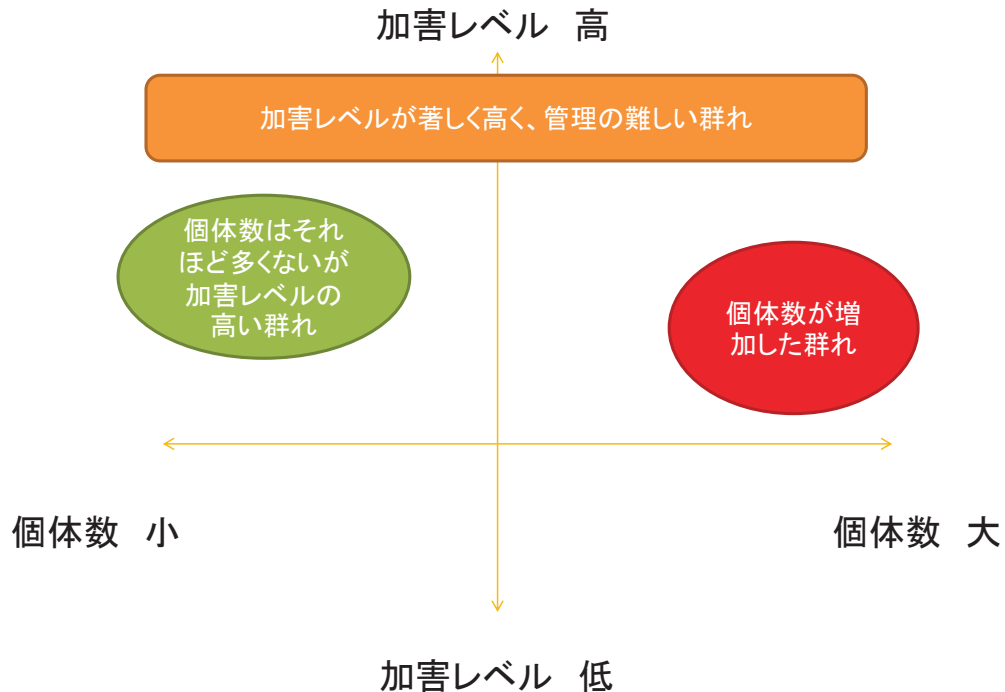
単純に捕獲による加害群数の削減だけを目指すのではなく、計画的な捕獲と効果的な被害対策を組み合わせることで、加害レベルを下げ、加害群数を減らすもの

「加害レベル」半減（加害レベルが高い群れを半減）と読み替えて、計画的な管理を実施することが重要

サル管理の効果的な進め方

2. 群れの状況に応じた捕獲オプションの選択

ニホンザル加害群の性質



ニホンザルの個体数管理 ～最近の考え方～

- ① 群れを特定し、群れの状況(個体数・加害レベル)に応じた手法選択
- ② 被害管理との組み合わせが不可欠

群れの全体捕獲

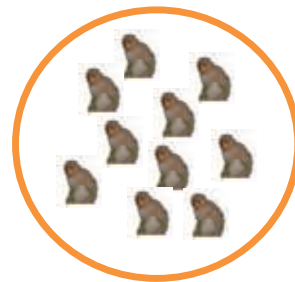
群れの排除

群れの部分捕獲

選択捕獲

群れの存続を前提
被害管理との組み合わせ

群れの分裂を防止し被害管理の効果が 出やすいサイズに管理



- 一度の被害が甚大
- 追い払いの労力が増す
- 分裂する可能性

適正なサイズ
(30～50頭) で管理

サルの捕獲（個体数管理）

目的・根拠を明確に
(住民説明が出来る捕獲を)

加害レベルの判定をすすめて対策の優先順位を (生息場所、出没頻度、出没規模、被害内容から総合的に判定)



効果的に捕獲するためのポイント

○必ずサルが通る場所に檻を設置する

サルが行かない場所では絶対につかまらない。安心してリラックスして食べれる場所を選ぶ

○しっかりと餌付けをする

怪しい檻の中に入れるために

冬にむけて餌付けする

① 新鮮で美味しそうな餌を使う

② 檻の中だけに①がある状態にする

I. 檻の外で餌を食べれない状態にする

II. 周辺に餌のない季節に捕獲する

捕獲檻は移動できる
タイプがおすすめ！

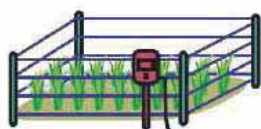
サル管理の効果的な進め方

3. 住民が主体となった 被害対策の普及

住民主体の対策推進のために

- ① 効果的な電気柵の普及とメンテナンス
- ② 効果的な追い払い方法の普及
- ③ 集落単位の指導
- ④ 群れの位置情報の共有システムの構築
- ⑤ モデル集落の選び方・作り方
- ⑥ 効果的な研修プログラムの実施

① 効果的な電気柵の普及



個々の農地を守る
(農作物被害の防止)

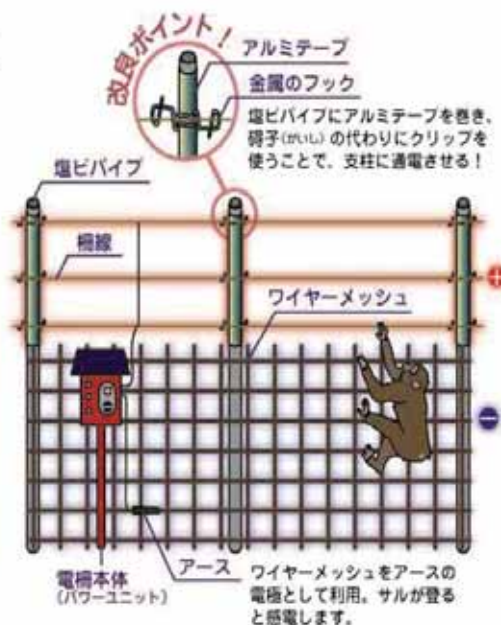


サルにも有効な多獣種対応電気柵

香美町考案

通電式支柱「おじろ用心棒」

鳥取県開発「シシ垣くん」を改良

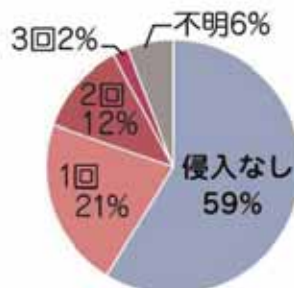


柵の効果

香美町で「サル用通電式ワイヤーマッシュ柵」を設置した農家の方 49 名にアンケート調査を実施しました。

柵を設置したあと

サルの侵入はありますか？



被害はどうなりましたか？



効果はどうですか？



柵を設置した後に、数回侵入された方がいるものの、ほとんどの農地で被害が解消し、全ての方が効果を実感していることがわかりました。

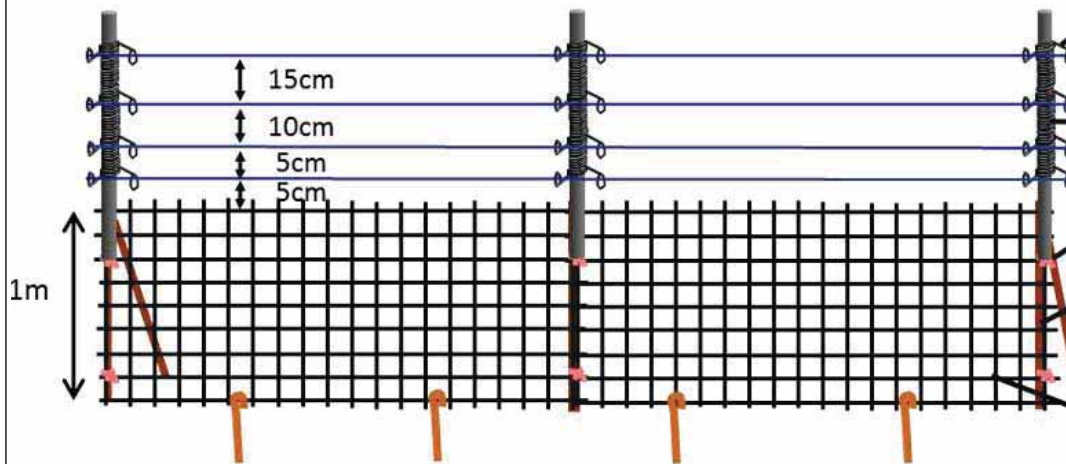
飛び込み防止のため、樹木や建造物から 3 m以上離す



電気柵に触れずに中と外を行き来できるような張り方はしない
サルは3m飛ぶという前提で畑をチェック

サルが侵入できる隙間がないように設置する

メッシュと1段目の間は5cmに



補助事業で柵の設置を進める場合

- ①適切な設置の仕方
- ②設置後のメンテナンス

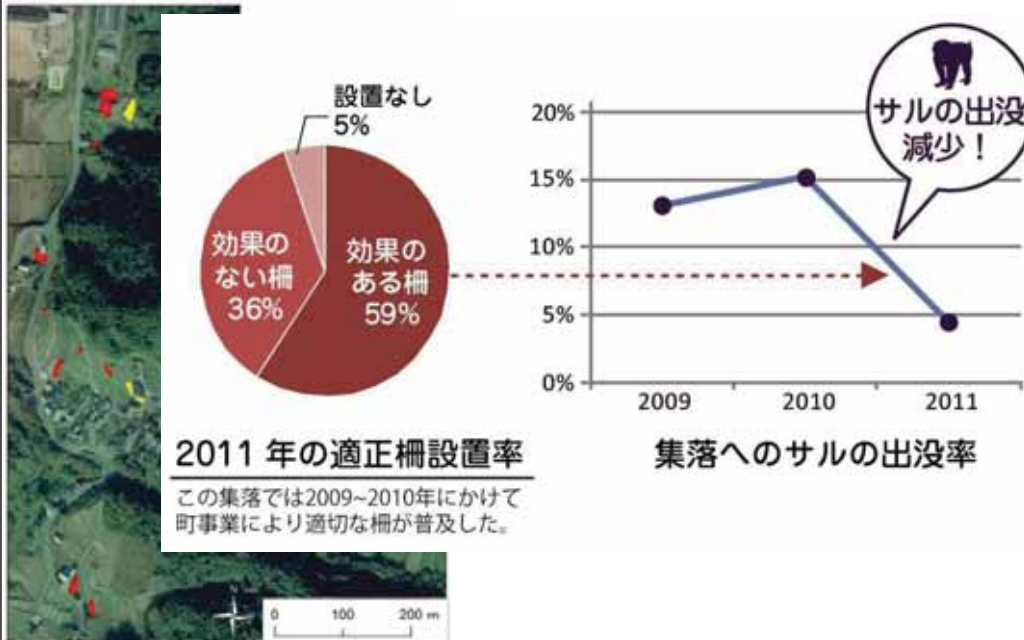
を事前情報として提供しておく



● 兵庫県香美町小代区S集落



みんなで「おじろ用心棒」を設置
集落内のエサ資源を減らすと・・・



餌を減らして、その上で集落に
やってきたら

徹底的に嫌がらせ
(協力的な追い払い)

② 効果的な追い払い方法の普及



集落全体を守る

(生活被害・精神的被害防止)

集落ぐるみの追い払い —効果をあげるための5か条—

1. サルの接近を把握し、待ち構えて追い払う。
2. 集落内で連絡をとりあってできるだけ多くの人で。
3. 個別に追い払うのではなく、サルが出没した箇所に集まってその日の追い払い作戦をたてる。
4. 無理に「追い返す」のではなく、いつものルートを見極めて「追い送る」
5. 群れが集落から出ていくのを確認して終了する

道具ではなく **人** が出ていることが大事



サルの出没を集落内に知らせる



至近距離でサルを痛めつける



当たれば威力大。竹林では竹に当たって効果が高まる？



電動ガンの届かないサルに向かって放って嫌がらせ

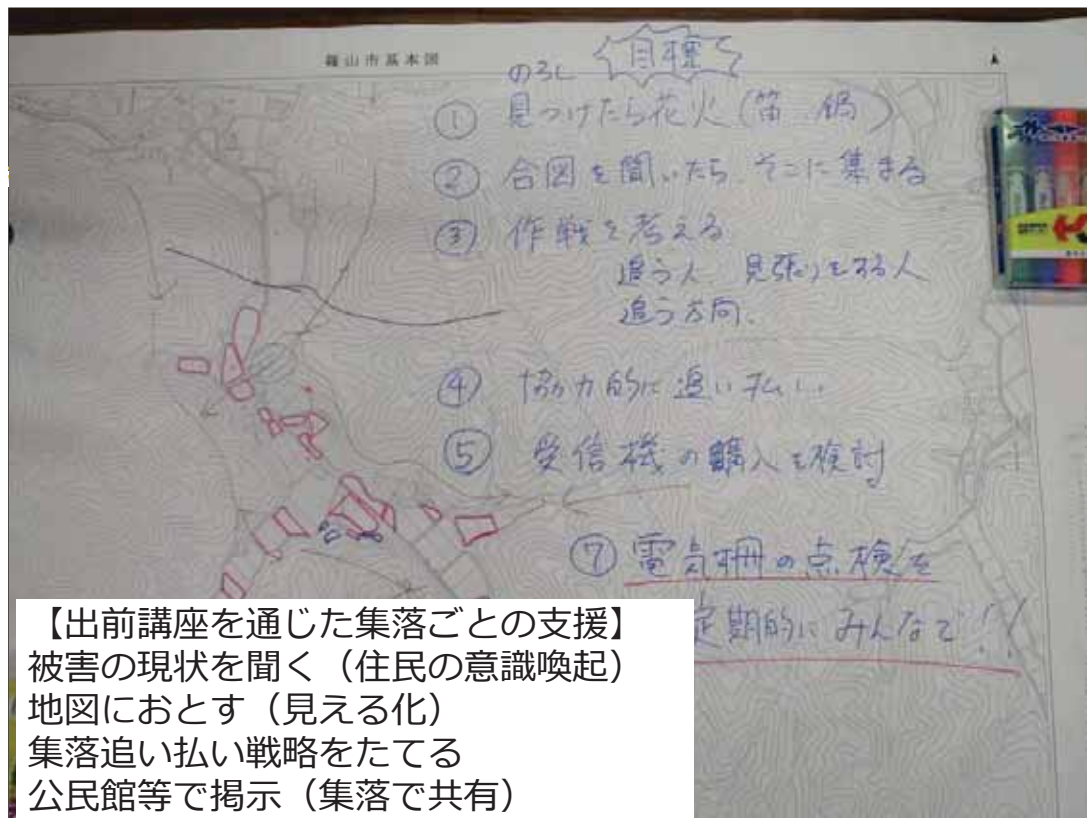
③ 集落単位の指導（集落点検・出前講座の実施）

サル対策出前講座の開催（兵庫県篠山市） 集落ぐるみの追い払い支援・電気柵フォローアップ



内容

- ①専門家による研修(座学)
- ②追い払い技術指導(屋外、写真)
- ③作戦会議



【出前講座を通じた集落ごとの支援】
被害の現状を聞く（住民の意識喚起）
地図におとす（見える化）
集落追い払い戦略をたてる
公民館等で掲示（集落で共有）

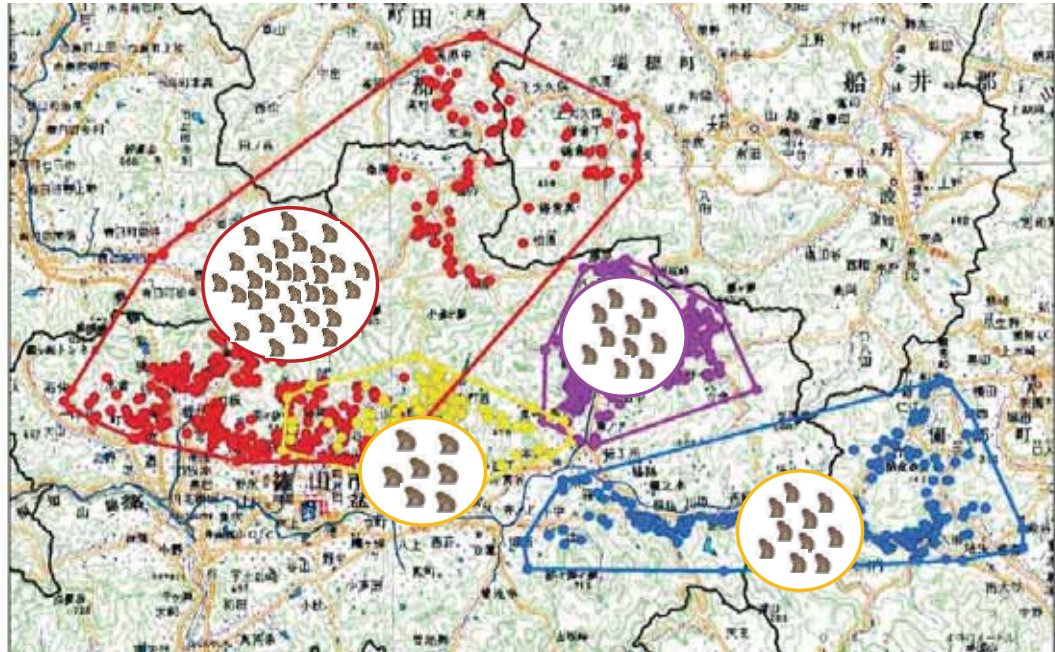


サル監視員による対策支援



群れを監視し、
地域を守る

群れには行動圏があり、行動圏内にある集落を巡回している



サルの群れの位置情報をメールで共有



- ◎ 1日1~2回の定時連絡（メール）
近くだと…警戒 遠くだと…安心
- ◎ 追い払いなど対策は集落主体で

ICT新技術実証：大丹波地域サル対策広域協議会 大丹波サル位置情報共有システム（サルイチ）



監視員が調査結果をタブレットで現地入力
and
住民が自ら目撃情報の提供も可能



- 各群の位置情報（2回/日）を登録
- 調査時の群れの出没・被害状況をモニタリング
⇒効果検証
施策検討
加害レベル判定に

サル管理の効果的な進め方

3. 役割分担に応じた主体間の連携と統合的な計画

二ホンザルの管理： 役割分担に応じた主体間の連携が必要

地域個体群-Scale

地域個体群管理のランドデザイン



保全単位の検討



モニタリング
実効性のある
特定計画の策定
・推進

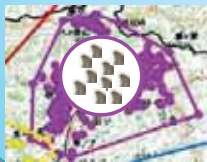


群れ-Scale

市町村

1) 計画的な個体数管理

2) 集落主体の対策推進



集落-Scale

集落住民が協力的に

- 1) 追い払い
- 2) エサ量の低減



農地-Scale

個人 = 個々の農地



サル対策を効果的に進めるための行政の役割

1. 捕獲計画（方針）と実績を明示しながら
2. 住民主体の対策を支援する
（市町村の役割・都府県の役割）

地域実施計画（地域条件にあわせて）

捕獲計画

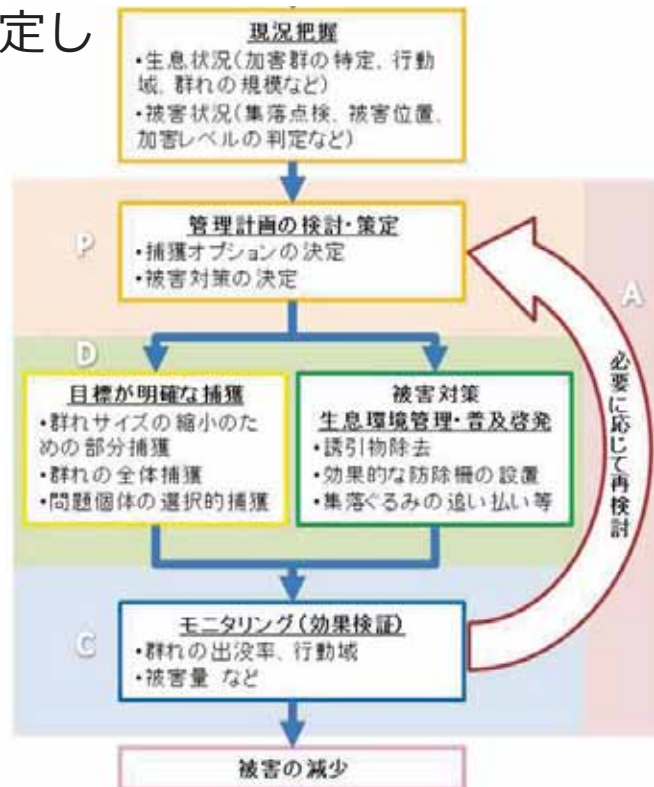
- 群れ数の把握
 - 発信器の装着
 - 個体数の把握
 - 加害レベルの把握
- ↓
- 捕獲方針・目標の策定
 - 捕獲手法の選択
 - 捕獲実績の共有

対策普及計画

- 普及計画の策定
 - ・ 研修会企画・実施
 - ・ モデル圃場での実証
 - ・ モデル集落での実証
 - ・ 希望集落への指導
- 群れ位置情報の共有化
- 集落間連携の促進、広域連携
- 地域リーダー等人材育成
- 地域活性化モデルの育成

統合的な計画を策定し PDCAで進める

- この体制を築いて
れば、地域住民の
皆さんも納得！？
- 他の先進地の事例
や専門家のノウハ
ウを取り入れる
- 民間事業者にアウ
トソーシングする



さいごに：ニホンザルの管理

- 初期対応が重要
 - ・ 放っておけば行動がエスカレートし加害レベルが進行し、被害が深刻化する。
 - ・ 個体数も増える。
- 被害が深刻化している場合
 - ・ 早急に具体的かつ効果的な計画立案が必要
 - ・ 各関係機関の果たす役割について理解を共有し、協力体制を築きあげることが必要

ご清聴ありがとうございました。



情報会員（無料）募集中

登録フォームから登録

<http://satomon.jp/boshu.html>

または

info@satomon.jpまで

「情報会員登録希望」とメール送信してください

対策指導者向け「獣がい対策」メルマガ
開始します。